

授業科目名	事例研究—くらしと権利擁護	単位数	2
担当教員名	伊東 享子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係 問題を提起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために解決のために実践しようとする気概を持つこと。人権擁護と権利擁護の考え方を知る。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 人権とは何か、権利とは何かを知る。</p> <p>(2) (1)の目標の到達の一途として、事例研究をし、権利擁護の視点から、解決への方策を知り、その妥当性を探る。</p> <p>(3) 権利擁護の理念に基づき、問題解決のための制度や関連諸機関の存在を知る。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人は、人間らしく生きることが法的に担保されている。基本的人権の尊重である。 ・しかし、現実の「くらし」の中で人々は、想定外の事件・事故・自然災害等に巻き込まれ、その人の「くらし」の中で権利が侵害され、生きづらさを感じている。そのために、大まかにライフステージを3つに分け、それぞれのステージの中で起きるであろう、エピソードを通して解決策を探る。 ・そこで、自身の権利はもちろんのこと、いわゆる社会的弱者（認知高齢者、知的・精神しょうがい者）を含め、すべての人の権利を擁護する制度等を知り、権利擁護の基礎知識を身につける。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：基本的人権の概要</p> <p>第2回：私人の能力（権利能力、意思能力、行為能力）と法律行為</p> <p>第3回：狭義の権利擁護制度（成年後見制度等の概要）</p> <p>第4回：高齢者の権利擁護に関する法律</p> <p>第5回：障がい者の権利擁護に関する法律</p> <p>第6回：それ以外の社会的弱者の権利擁護に関する法律</p> <p>第7回：社会福祉サービスの利用者（認知高齢者、知的・精神障がい者等）</p> <p>第8回：社会福祉サービスの担い手</p> <p>第9回：「(誕生から)働き世代」に生じるであろうエピソードに対する法的検討（事例検討）</p> <p>第10回：「熟年世代」に生じるであろうエピソードに対する法的検討（事例検討）</p> <p>第11回：「老年世代」に生じるであろうエピソードに対する法的検討（事例検討）</p> <p>第12回：広義の権利擁護制度（苦情解決制度、オンブズパーソン制度等）</p> <p>第13回：権利擁護の実践（福祉的視点から、社会的弱者の自己意思決定の実現を目指して）</p> <p>第14回：権利擁護に関する最近の動向</p> <p>第15回：事例に学ぶ「くらしと権利擁護」 まとめ</p> <p>定期試験</p>			

スクーリングでの学修内容

特に、第1回、第2回、第3回、第9回、第10回、第11回という法的内容に関する回を中心に学び、事例検討をしながら、全体像を把握する。

テキスト

- (1) 社会福祉シリーズ 19 権利擁護と成年後見制度 福田幸夫・森 長秀 弘文堂

参考書・参考資料等

- (1) 社会福祉六法 2021 (ミネルヴァ書房) ミネルヴァ書房編集部

* 上記は、国家試験受験予定者は、購入推奨

- (2) 権利擁護が支援を変える 竹端 寛著 現代書房

- (3) 社会福祉と権利擁護 秋元美世・平田 厚著 有斐閣アルマ

(4) 事例で学ぶ「障害のある人の意思決定支援」小澤 温 大石剛一郎、川崎市障がい者相談支援専門員協会編 現代人文社

学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。